

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村山 一弥

<b>事業名</b> ：一般国道41号 <small>みのかも</small> 美濃加茂バイパス	<b>事業区分</b> ：一般国道	<b>事業主体</b> ：国土交通省 中部地方整備局					
<b>起終点</b> ：自：岐阜県美濃加茂市太田町 至：岐阜県加茂郡川辺町石神	<b>延長</b> ：9.4 km						
<b>事業概要</b> ：一般国道41号美濃加茂バイパスは、岐阜県美濃加茂市太田町から加茂郡川辺町石神に至る延長9.4 kmのバイパスです。 美濃加茂バイパスに並行する国道21号、県道371号（旧国道41号現道）には、主要渋滞箇所や事故危険区間の課題があり、本事業により、交通渋滞の緩和、交通事故の減少等の効果を見込んでいます。							
S49年度事業化	S49年度・S55年度 都市計画決定	S53年度用地着手	S58年度工事着手				
<b>全体事業費</b>	645 億円	<b>事業進捗率</b>	78%	<b>供用済延長</b>	9.4 km		
<b>計画交通量</b>	26,100 台/日						
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体)	1.7	<b>総費用</b> (事業全体) 126 / 1,096 億円 （事業費：108/1029億円 維持管理費：17/67億円）	<b>総便益</b> (事業全体) 305 / 1,837 億円 （走行時間短縮便益：280/1542億円 走行経費減少便益：13/201億円 交通事故減少便益：12/94億円）	<b>基準年</b> ：平成29年		
	(残事業)	2.4					
<b>感度分析の結果</b>							
(事業全体)	交通量	B/C=1.5~1.8(交通量 ±10%)		(残事業)	交通量	B/C=2.2~2.7(交通量 ±10%)	
	事業費	B/C=1.7~1.7(事業費 ±10%)			事業費	B/C=2.2~2.7(事業費 ±10%)	
	事業期間	B/C=1.7~1.7(事業期間 ±20%)			事業期間	B/C=2.3~2.5(事業期間 ±20%)	
<b>事業の効果等</b>							
①円滑なモビリティの確保							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。</li> <li>・現道等の旅行速度の改善が期待される。</li> <li>・利便性の向上が期待できるバス路線（美濃加茂市コミュニティバス）が存在する。</li> <li>・特急停車駅（美濃太田駅）へのアクセス向上が見込まれる。</li> <li>・空港（名古屋空港）へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul>							
②国土・地域ネットワークの構築							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。</li> <li>・日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul>							
③個性ある地域の形成							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点開発プロジェクトを支援する。</li> <li>・主要観光地（平成記念公園（日本昭和村））へのアクセス向上が期待される。</li> </ul>							
④安全で安心できるくらしの確保							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・三次医療施設（中濃厚生病院）へのアクセス向上が見込まれる。</li> </ul>							
⑤災害への備え							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次緊急輸送路として位置づけられている。</li> </ul>							
⑥地球環境の保全							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量の削減が見込まれる。</li> </ul>							
⑦生活環境の改善・保全							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NO2排出量の削減が見込まれる。</li> <li>・SPM排出量の削減が見込まれる。</li> </ul>							
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>							
<b>県知事の意見</b> ：							
対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。 なお、今後の事業の実施にあたっては、下記の内容についてご配慮願います。 ・事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト削減をお願いします。							

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・坂祝バイパスの全線開通（H28.3）後、太田町交差点の交通量が増加し、ピーク時を中心に渋滞が発生している。
- ・美濃加茂バイパスでは、交通事故の約4割が太田町交差点付近で発生している。
- ・美濃加茂市は美濃加茂バイパス全線開通後、周辺町村と「みのかも定住自立圏」に関する協定を締結し、圏域全体の活性化、人口定住を図っている。
- ・美濃加茂バイパスの整備進展に伴い、美濃加茂バイパス沿線に多くの企業が立地。美濃加茂市の製造業雇用者数、人口ともに増加した。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は78%、用地取得率は100%（平成28年度末）
- ・平成24年度までに全線暫定2車線開通済み、平成26年3月に 太田町周辺が4車線で開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・坂祝バイパス開通（H28.3）の影響を含め、周辺交通状況を踏まえつつ、完成4車線化を進めていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

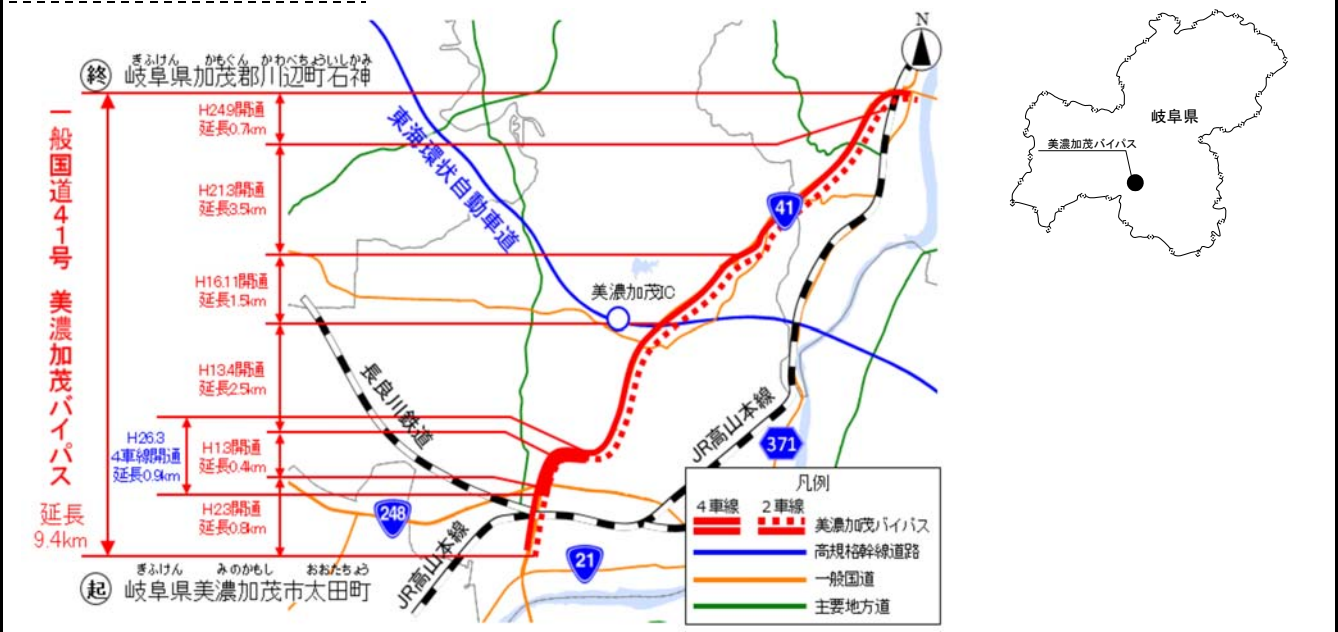
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。